東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2010年7月30日

スンナに従うこと

親愛なるムスリムの皆様。預言者ムハンマドが約23年の間預言者として活動された中で語られた全ての言葉、なされた全てのこと、勧められた、あるいは拒まれた全ての事柄はスンナと名づけられるものです。スンナはイスラームにおいてクルアーンについで二番目の根源です。全てのムスリムが従うべきものです。アッラーはクルアーンで「また使徒があなたがたに与える物はこれを受け、あなたがたに禁じる物は、避けなさい。アッラーを畏れなさい。」（集合章7節）とおっしゃられ、教えにおけるスンナの地位を明らかにしておられます。預言者ムハンマドに従うことはアッラーに従うことであり、同時に預言者ムハンマドが信者たちにとってあらゆる面で良い模範であることをも示すクルアーンの言葉もまた、スンナの重要性を示唆するものです。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。預言者ムハンマドは、クルアーンと共にスンナにも留意した生き方が人を教えへ、そして幸福へと導くこと、スンナから遠ざかり、あるいはそれを放棄して生きることは最後には逸脱や悲しみへと至るものであることを語られています。最後の説教で預言者ムハンマドは次のように語られました。「私はあなた方に二つのものを遺す。それらにしっかりと結びついている限り、道に迷うことはないだろう。その一つはアッラーの書物であり、もう一つはアッラーの使徒のスンナである」

預言者ムハンマドの私たちへの信託、遺産であるスンナを実践し、実践させることは、教えを存続させることにつながり、それを拒否、あるいは放棄することは教えへの理解や実践がだめになることをもたらします。預言者ムハンマドはこの点について触れているあるハディースで次のようにおっしゃられています。「教えの喪失はスンナの放棄によって始まる。綱がほどけていくように、教えもまたスンナが一つ一つ放棄されることによって姿を消す」

親愛なるムスリムの皆様。スンナはアッラーの最後の啓典であるクルアーンを説き明かすという点でも、イスラームにおいて重要な位置を占めています。実際、クルアーンで命じられ、イスラームの柱でもある礼拝がどのようになされるか、断食がどのように行われるか、ザカートがどこからどのように支払われるか、巡礼がどのような形で行われるかということは、全てハディースによって学ばれてきたのです。信仰に関する事柄の詳しい知識の源もまたハディースです。その他にも、クルアーンでは基本的なことだけが示され詳細に触れられていない、ただ預言者ムハンマドが日々の暮らしの中で示され、信者たちが従うべきである多くの道徳的規則もまたスンナによるものです。これらは私たちに、スンナがなければクルアーンの多くの言葉の理解、イスラームの正しい実践が不可能となっていたことを示しているのです。

親愛なるムスリムの皆様。スンナを放棄し、「クルアーンが十分だ」という人のイスラームへの理解は誤ったものです。預言者ムハンマドはこのような考えを持つ人々に次のような警告をなされています。「私が命じたこと、あるいは禁じたことがあなた方に伝えられた時、あなた方の誰かがイスにふんぞり返って『私たちはそんなものは知らない。アッラーの書にあるものに従うだけだ』といっているところを私が見ることのないように」

今日のフトバを、預言者ムハンマドの重要な言葉によって締めくくります。「誰であれ、私のスンナから顔を背ける者は私の仲間ではない」「私のスンナを愛しそれを実践する者は、私をも愛したことになる。私を愛する者は、天国で私と共にいるであろう」